對話

『仲直り』

曾根翠

（九年九ヶ月）

登場人物

うさぎの兎太郎

かめのかあ子

いたづらぎつねのこん太郎

たぬきのポン子

百せう

場所

一　山の中

二　畠の中

一　山の中

たぬきご、うさぎご、かめがでゝ來る。

かめ「ねえ、ボン子さん、うさ太郎さん、ごうしてこん太郎さんはいけないのでせうね」。

うさぎ「本當にね、きつこおはたけをあらしたり、お百しやうや、僕たちをいぢめるから、みんなからきらはれるのだよ。そして、るばるしね」。

たぬき「あのくせをやめてくれないかしら」。

一同「困つたなあ」。

かめ「さう〳〵、お百しやうにたのんで、をこし穴か、わなを作つてもらひませうよ」。

一同「それがいゝ〳〵」。

かめ「そんなら、みんなでかけ足でゆかない？」

たぬき「だめ〳〵、私おなかゞぢやまになつてはしれないわ。それにかあ子ちやんだつてのろいでせう。それをかんがへなきやあだめよ」。

かめ「あつ、さうだつたわ。そんなら兎太郎さんにいつてもらふわ。ねえ兎太郎さん、お百しやうの所へいつてきてちようだいな」。

うさぎ「うん、では、いつてくるよ」。

うさぎかけ出して行く。しばらくたつて、

かめ「私なんだかしんぱいだわ」。

たぬき「もしお百しやうがきゝちがへてうさぎじるをつくつたり、こんたらうにあつてひごいめに

あはされたんじやあないのかしら」。

そこへうさぎが息をきらしてかけこんでくる。

一同「どうしたの」

うさぎ「お百しやうのこころでをこし穴をつくつてもらつたんだよ、そのかへりにこん太郎にあつ

てね、をひかけられたんだよ。あゝこはかつた。ほら〳〵やつて來たよ、はやくかへらう」。

一同「さやうなら」。

うさぎとたぬきは上手へ入り、かめは下手へ入る。

こん「なあんだ、みんなよわむしだなあ。あはははは」。

こん太郎はいる。まく。

二　畠の中

こん太郎いつものごとく畠をあらしに來た。ぶたいの上へを歩く。こう〳〵をこしあなにかかる。

こん「きやつ」

ミ悲鳴をあぐ、うさぎ、たぬき、かめ、でゝくる。

一　同「やあい〳〵、ばちがあたつたんだぞう」。

みんなをこしあなのまはりをゝごりながらまはる。

こ　ん「ゆるして下さい〳〵。もう悪いことはしませんからだして下さい」。

こん太郎泣く。こん太郎を出してやる。

こ　ん「ありがたう〳〵。みんな仲直りしませう」。

たぬき
うさぎ「それがいゝ〳〵」。

かめ

一　同「ばんざい〳〵〳〵」。

そこへ百しやう出る。

百しやう「あゝあゝ、やつぱり友達はいゝものだ、みんな仲好くするにかぎるな」

百しやう退場。

唱「うれしい〳〵うれしいな、みんなで〳〵仲直り。たのしく〳〵あそびませう」

くりかへし、唱ひながら入る。幕。

終り